

平成 2 8 年 2 月 1 5 日

行政視察報告書		(会派の場合) 会派の名称	
		代表者氏名	
		(会派以外の場合) 議員氏名	伊東 圭介
参加議員	_____	議員	議員
	_____	議員	議員
	_____	議員	議員
	_____	議員	議員
視 察 先	(1) 藤沢市北部環境事業所		
	(2) リサイクルプラザ藤沢		
	(3) 茅ヶ崎市役所		
視察目的 (項目)	(1) 資源ステーション方式から戸別収集への移行について		
	(2) 最新の破碎処理施設及び資源化施設の視察		
	(3) コミュニティバスに関する取り組みについて		
【調査内容・概要】			
戸別収集事業の視察			
<p>藤沢市では、戸別収集開始後 2 ~ 3 年後に資源物等もステーション収集から戸別収集に切り替えて実施している。その現状を収集現場に同行させて頂き現状を視察させていただいた。住宅地の中に資源ステーションらしきものはなく、玄関先に可燃物と資源物が分けて置いてあり、それを収集職員が手際よくパッカー車に積んでいた。パッカー車にも可燃物と資源物が同時に収集できる装備になっていた。当町でも今後、取り組むべき事業である。</p>			
藤沢市北部環境事業所 1 号炉・リサイクルプラザ藤沢の視察			
<p>藤沢市石川にある藤沢市北部環境事業所 1 号炉を視察した。施設規模は、日量 1 5 0 トン (2 4 時間連続) 1 炉 1 系列で年間稼働日数は、2 8 0 日以上のスーパークー方式の焼却施設です。平成 1 9 年 3 月に竣工し、設計・施工は、株式会社タクマであるとのことでした。この施設は、P F I 事業に準じて公設民営方式 (B O D 方式) により平成 1 9 年 4 月から稼働し、その運営は、施設の設計・施行を行った(株)タクマが引き続き行っている。民間事業者の専門的な技術を活かして運営することにより、施設の運転管理を安全に効率よく行うことができるとのことでした。また、焼却時の熱利用で発電も行い、施設内の電力を賄っており、余剰分は東京電力に売電しているとのことでした。</p>			

次に藤沢市桐原町にあるリサイクルプラザ藤沢を視察しました。

敷地面積は、2093㎡と広大であり、その中に廃棄物処理棟と環境啓発棟に分かれて配置されていました。廃棄物処理棟は、鉄骨造一部鉄筋コンクリート造の地下1階地上2階建てで延べ床面積は、9102㎡あり、最新の施設でした。破碎処理施設では、不燃ごみ・大型ごみが処理されます。それぞれ受入ホッパへ投入され、低速破碎機で粗く破碎されます。その後、不燃ごみ・大型ごみは高速破碎機で細かく破碎された後に、資源物（鉄・アルミ）と破碎残渣に分別できます。資源化施設では、プラスチック製容器包装、ペットボトルは、コンベア上で手選別により異物を取り除いた後、圧縮梱包します。缶・金属類は、鍋・やかん類を回収後、手選別により異物を取り除き、スチール缶とアルミ缶に選別して専用のプレス機で圧縮します。ビンは、リターナブルビン（リターナブル）を回収後、手選別で色別に選別・保管するようになっていました。各施設とも中央制御室でコンピューターにより集中管理されておりました。

茅ヶ崎市におけるコミュニティバスに関する取り組み

現在、4路線だが目標年次の2020年には、8路線にまで拡充する予定であるとの事でした。平成14年の事業開始から延べ約380万人が利用してきたコミュニティバスの効果は、交通空白・不便地区の解消 高齢者や障害者等の移動支援（通院・買い物・余暇支援等） 人の移動に伴う商業の活性化などであり、地域活性化や市民生活の質の向上に寄与してきたとのことでした。

茅ヶ崎市の特徴として交通空白地の解消だけではなく、4路線とも茅ヶ崎駅と私立病院を核とした市内交通網の構築があると思った。当町においても高齢化は、重要な問題であり、誰もが安心して自由に外出できる社会の創出をめざさなければならないと感じた。当町も過去の調査・議論とは別に今後の取組みとしてもう一度真剣に議論すべき重要課題である。